

PTSD 構造化面接 CAPSを理解する

本研修ではPTSD診断の際に必要な心構え、尺度、面接法について学びます。特に、臨床、研究、そして司法など、さまざまな場面で確定診断を付ける上で、重要な技法である構造化面接法を習得する機会になります。

今回取り上げる、CAPS(Clinician-Administered PTSD Scale)は、米国国立PTSDセンターで開発され、現在もっとも精度の高いPTSD診断用構造化面接尺度として広く知られています。

国際的にもこれまで各国で数多くの臨床研究、薬剤治験等で使用されてきました。日本語版も標準化されており、使用頻度の高い面接法です。また最近、二つの抗うつ剤に、PTSDの適応が追加されたことから、臨床場面での重要性は高まると思われる。

なお、CAPSは平成18年4月から、保険適用（450点）となっています。

今回の研修では、尺度の解説、トレーニングビデオを用いた模擬症例の症状評価、参加者同士でのロールプレイによるシミュレーションを行います。また、PTSD基準の変遷、特にDSM-5における変更点についても学びます。なお、研修受講後の研鑽のために、トレーニング用DVD及び日本語版CAPS-5を配布いたします。

日時

平成28年11月5日（土）
13:00～17:00

場所

兵庫県こころのケアセンター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-3-2

定員

30名

受講料

10,000円

講師

加藤 寛

(兵庫県こころのケアセンター長)

主催

兵庫県こころのケアセンター

後援

日本トラウマティック・ストレス学会



公益財団法人 21世紀文明の創造をめざして
ひょうご震災記念21世紀研究機構
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Institute